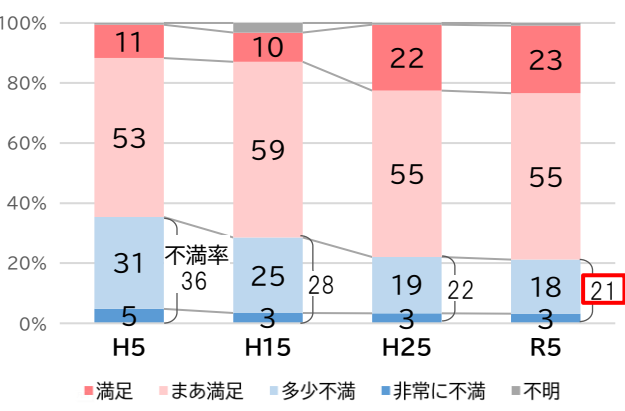


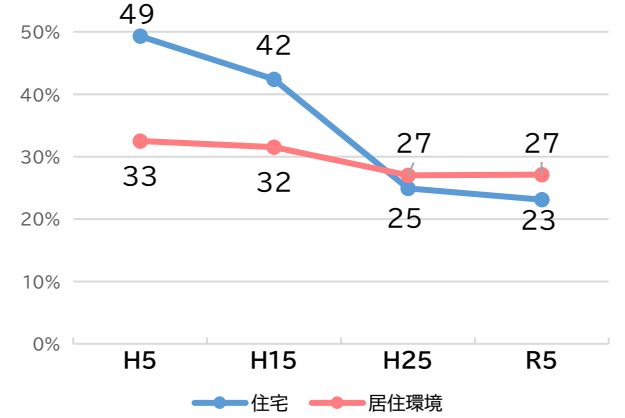
- ①「住宅・居住環境」に関する総合評価は、10年前と比べて概ね横ばいで推移。「住宅」の不満率は引き続き低下した一方、「居住環境」の不満率は10年前と比べて横ばい。
- ②借家の「住宅」に関する不満率が高い。また、ファミリー世帯※の不満率は堅調に低下している一方、単独世帯、高齢者世帯の不満率は10年前と比べて横ばい又は微増。
- ③「住宅」に関して重要と思う項目の不満率を見ると、単独世帯(64歳以下)の「上下階や隣戸・隣室からの騒音などに対する遮音性」、ファミリー世帯の「広さや間取り」「防犯性」において持ち家と借家の不満率の差が大きい。
- ※：親と子供から成る世帯(長子17歳以下)

(1)住宅・居住環境の総合的な評価

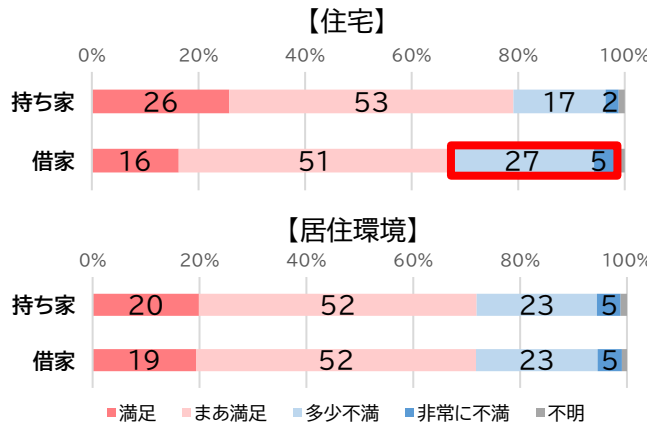
〈住宅・居住環境に関する総合評価(全体)の推移〉



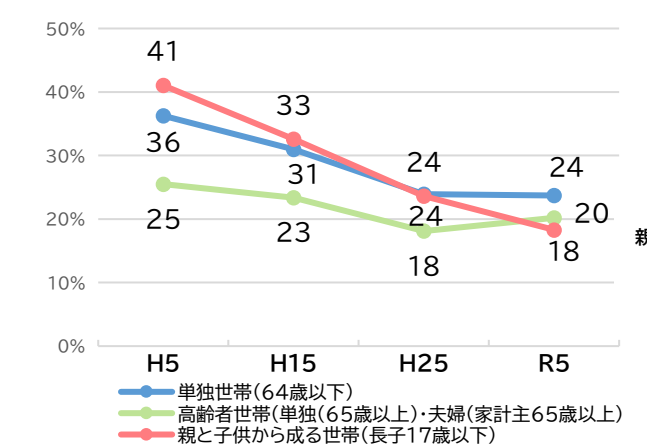
〈不満率の推移(住宅・居住環境別)〉



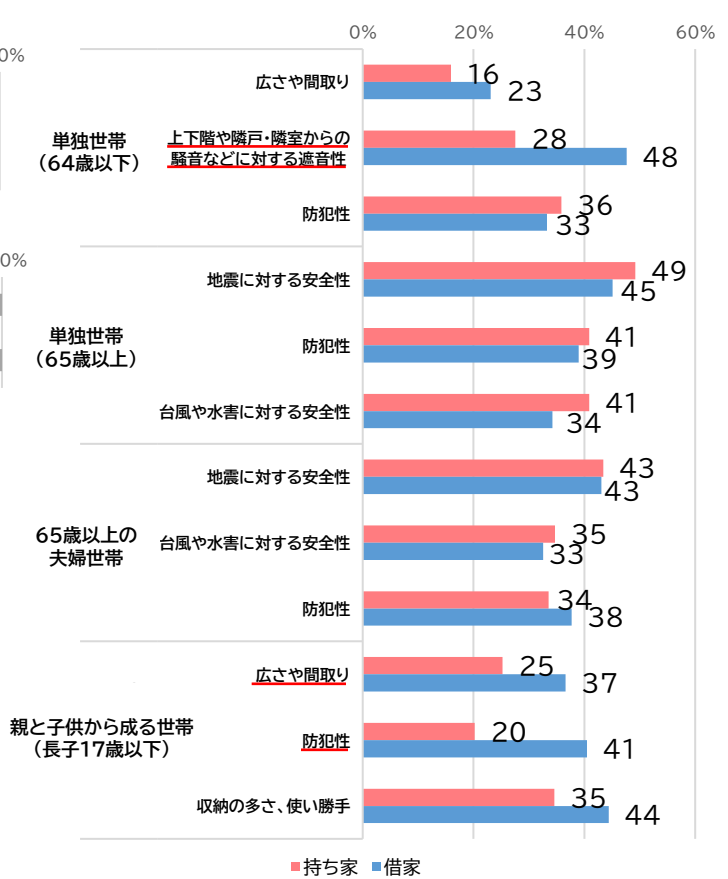
〈住宅・居住環境別の総合評価(持借別)〉



〈不満率の推移(家族類型別)〉



〈住宅の重要と思う項目の不満率(家族類型別・持借別)〉



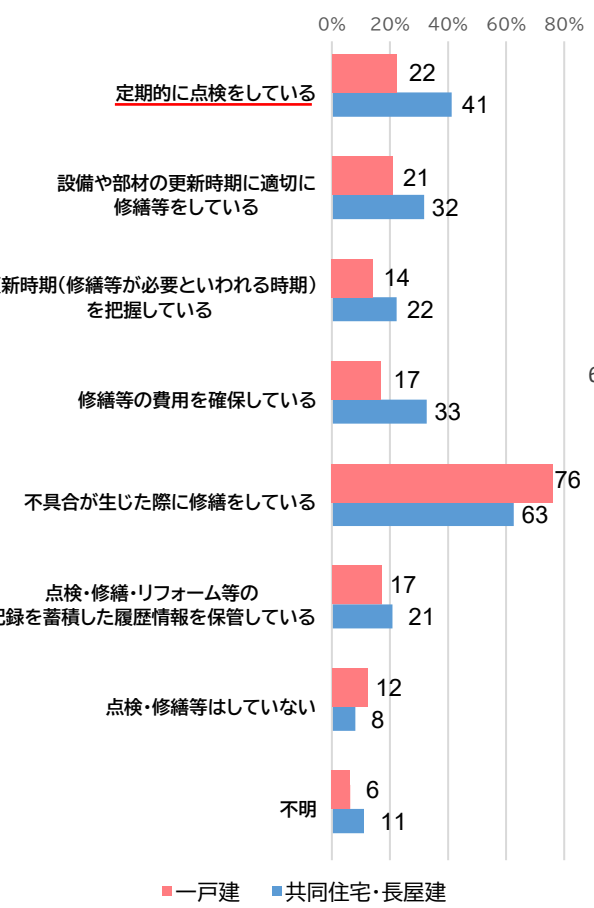
※住宅の質の重視する18項目のうち、家族類型別の上位3項目の不満率について掲載。

- ①一戸建の維持管理について、「定期的に点検をしている」世帯は約2割。
 - ②最近(※¹)の住み替え等の状況(※²)は、約2割が住み替え、約2割がリフォームを実施。住み替えた世帯を見ると、借家に居住する単独世帯(64歳以下)、ファミリー世帯の住み替えが多く、特にファミリー世帯では「借家→持ち家」の割合が高い。
 - ③最近の住み替え等の理由は、単独世帯(64歳以下)、ファミリー世帯では「自宅を所有するため」「世帯からの独立」、65歳以上の世帯では「高齢期の住みやすさ」「立ち退き要求、契約期限切れのため」が多い。
- ※¹：平成31年1月から令和5年12月調査時点まで ※²：住み替え、リフォーム、建て替えを含む。

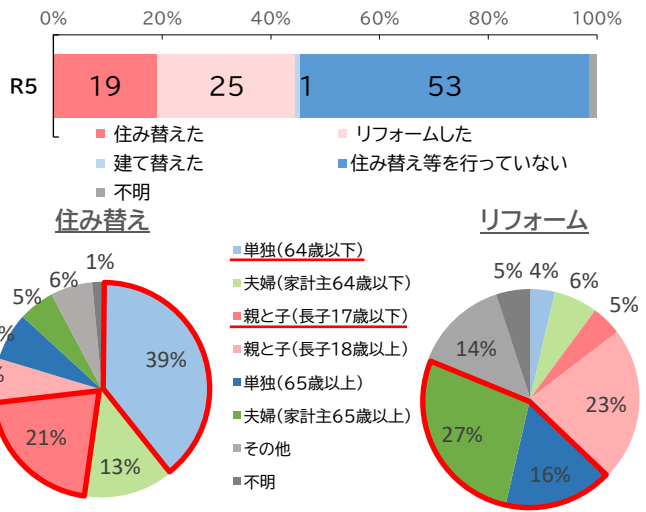
(2)維持管理の実態

(3)最近の住み替え実態

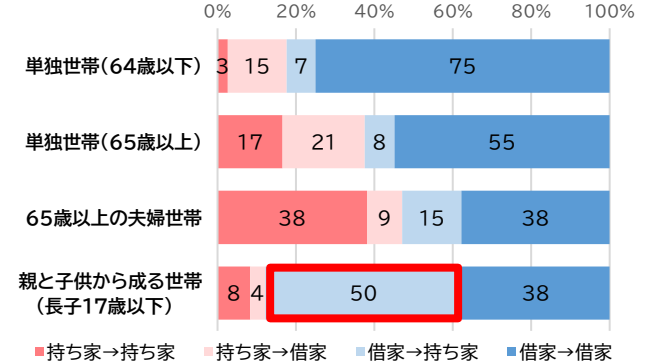
＜住宅の維持管理について(持ち家・建て方別)＞



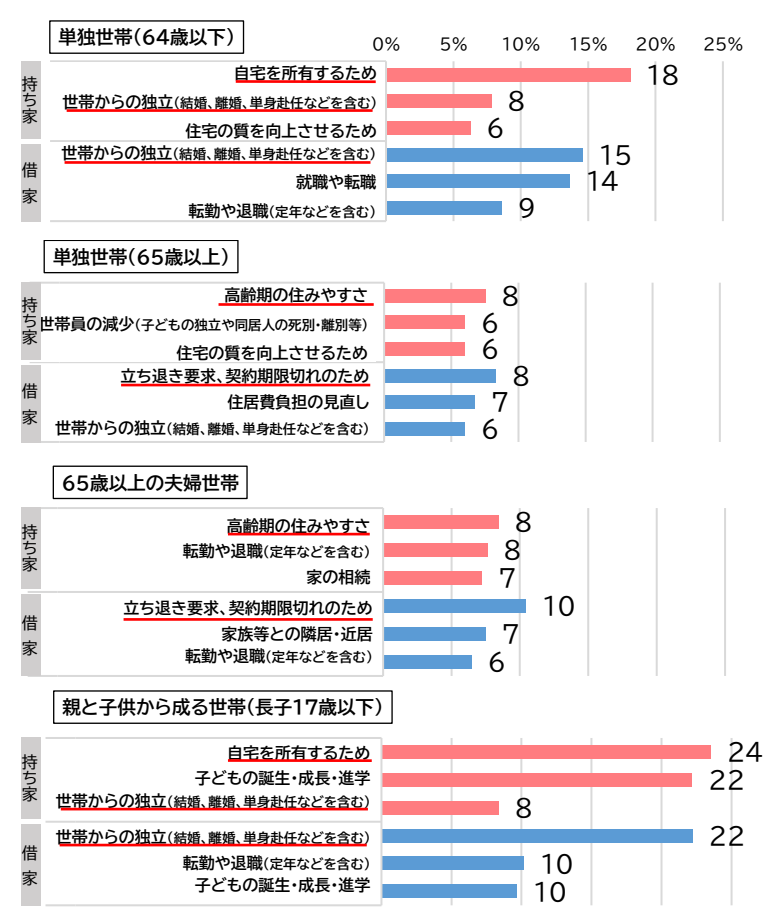
＜最近の住み替え等の状況＞



＜最近の居住形態の変化(家族類型別)＞



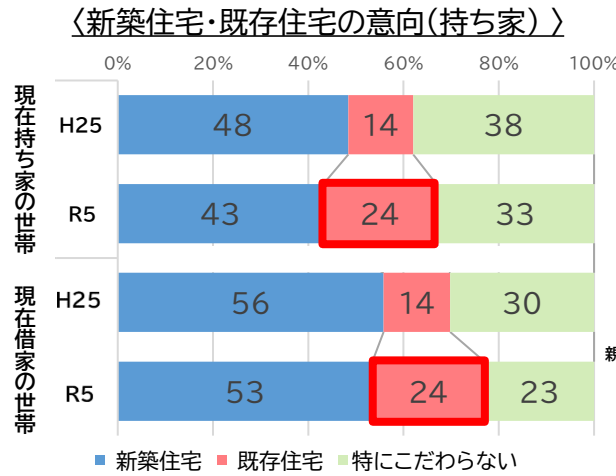
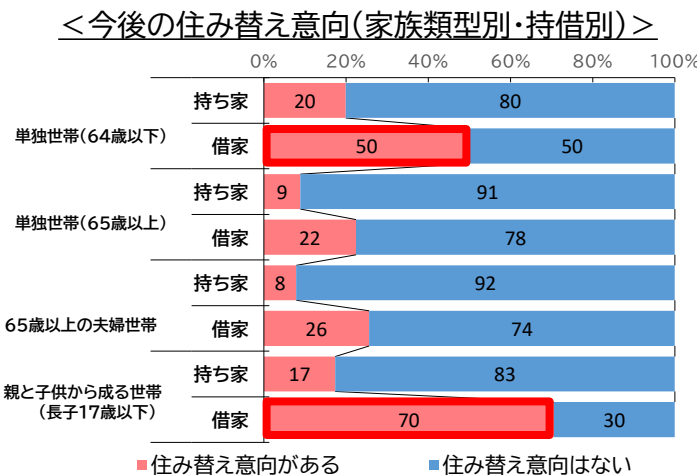
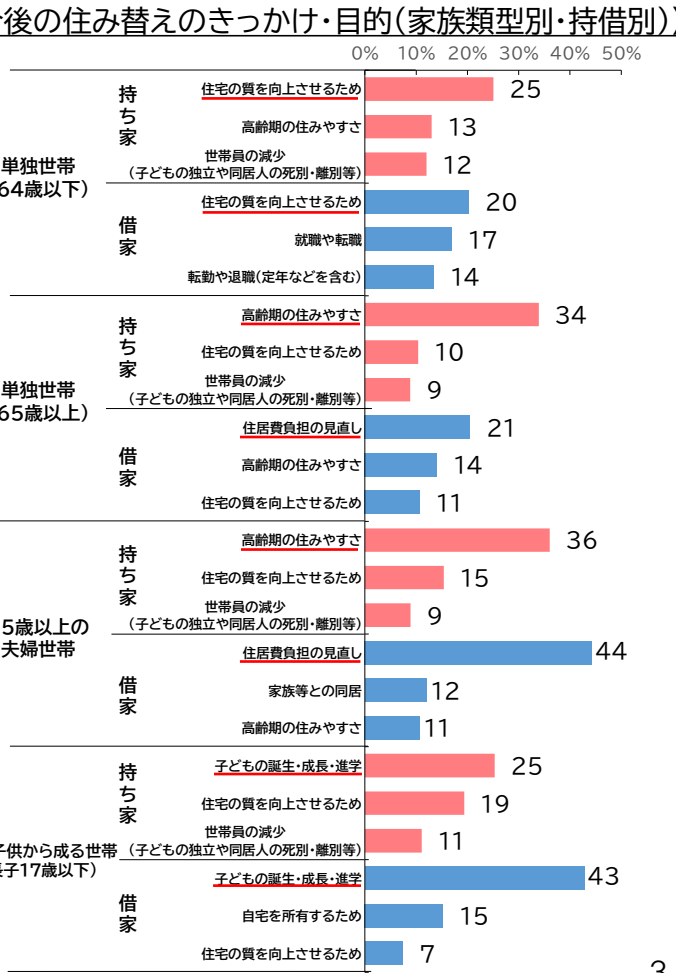
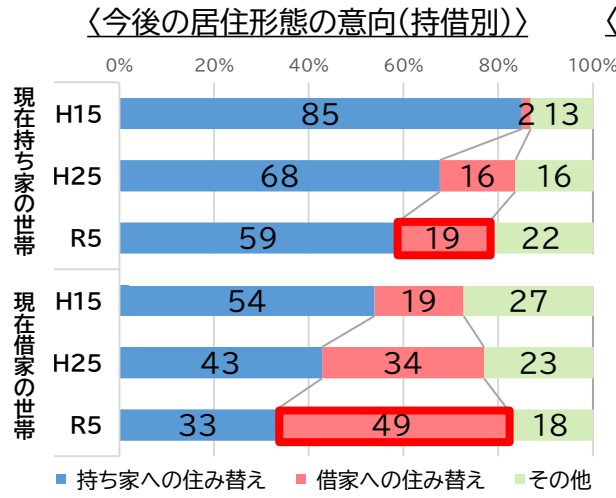
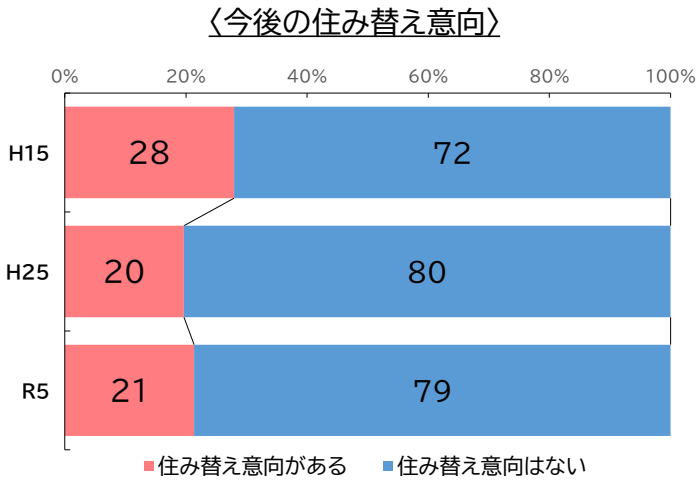
＜最近の住み替え等の理由(家族類型別・持借別)＞



※住み替え等の理由(1位)15項目のうち、家族類型別の持ち家・借家毎に上位3項目について掲載。2

- ①今後の住み替え意向は10年前と比べて概ね横ばい。家族類型別では、借家に居住する単独世帯(64歳以下)とファミリー世帯の住み替え意向の割合が高い。
- ②今後の居住形態の意向は、現在持ち家、借家の世帯ともに「借家への住み替え」、「既存住宅への住み替え」の意向が増加。
- ③今後の住み替えのきっかけ・目的は、単独世帯(64歳以下)では「住宅の質を向上させるため」、ファミリー世帯では「子供の誕生・成長・進学」が多く、高齢者世帯では、持ち家の世帯は「高齢期の住みやすさ」、借家の世帯は「住居費負担の見直し」の割合が高い。

(4)今後の住み替え意向



※今後の住み替えの目的(1位)の15項目のうち、家族類型別の持ち家・借家毎に上位3項目について掲載。